

サステナビリティ

サステナビリティへの取り組み

サステナビリティ管掌メッセージ

企業理念であるQOLの向上を目指し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



帝人グループ常務執行役員
サステナビリティ管掌
山西 昇

近年、持続性という言葉が新聞紙面などで見ない日はないと感じています。でも少し違和感を覚えるのは、主語がなく使われている例が多いことです。「何」を持続しなければいけないのでしょうか？ 私なりに考えると、私たちが身を置いているこの「社会」だと思います。では、この社会の持続性とは何が原点になるのでしょうか。

欧州のCSRの原点は1990年代の若年層の失業問題であるそうです。そのまま放置しておけば、ヨーロッパ社会が持続できないということで、政府のみならず、企業を巻き込んでこの失業問題に対処してきたようです。そして、人は一人ひとり社会にとって欠くべからざる資産であって、企業は社会の資産を預かる以上、それに応じた責任を引き受けたわけです。人を教育・訓練し、そして価値を形成してもらう。従って、「社会」の持続性には「人権」というものが必ず根底にあると考えます。

人権以外にもサプライヤーが持続的でないと、私たちの事業は成り立たません。さらにモノ、サービスを提供するにあたり、人に有害であることは許されません。また、その提供物を作り出し、お客様のもとに届けるまでに多くのCO₂を排出してしまえば、気候変動の片棒を担ぐこととなります。

このように、社会が持続するためには、多面的な課題の一つひとつを解きほぐしていく、地道な活動が必要です。私たち帝人グループは、会社の理念であるQOLの向上を図るために、日夜この課題に挑戦し続け、社会の持続性に貢献していきます。

サステナビリティ方針とSDGs >

社会課題解決に向け、人を中心に3つのソリューションによる価値を社会に提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。

- [取り組み方針 >](#)
- [CSRの基本方針 >](#)
- [グローバル・コンパクトへの参加 >](#)

マテリアリティとKPI >

帝人グループの5つのマテリアリティと、重要指標および目標値を紹介します。

- [帝人グループのマテリアリティ >](#)
- [KPIと目標 >](#)

マネジメント体制と推進活動 >

帝人グループにとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤を確立してCSR活動を推進しています。

- [マネジメント体制 >](#)
- [推進活動 >](#)

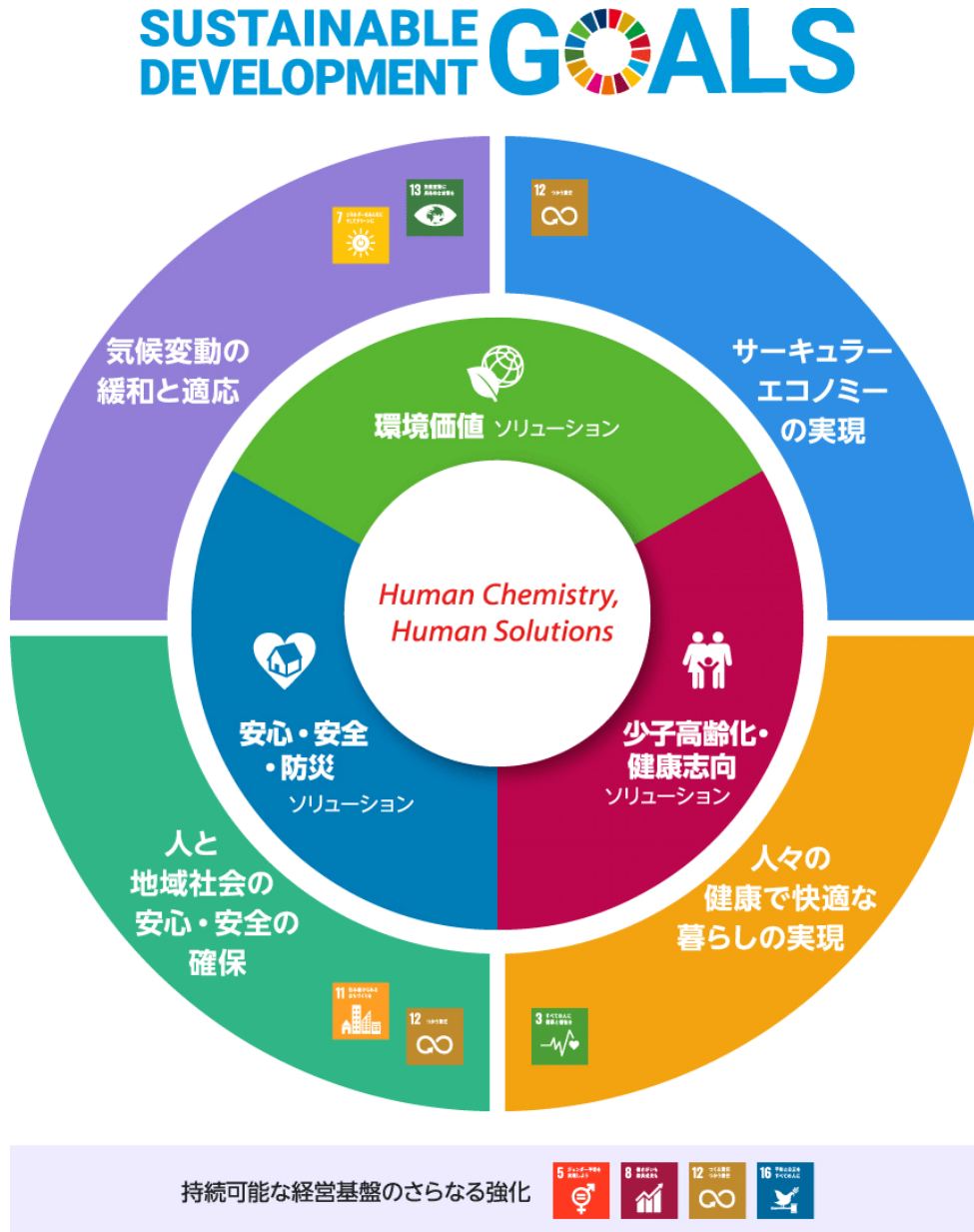
ソリューションと価値創造 >

強みを活かした3つのソリューション提供により、新たな価値を創造し、社会に提供していきます。

サステナビリティ




サステナビリティ方針とSDGs

帝人グループは、以下の取り組み方針のもと、社会課題解決に向け、人を中心に3つのソリューション（1.環境価値、2.安心・安全・防災、3.少子高齢化・健康志向）による価値を社会に提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。



取り組み方針

私たちは、持続可能な社会の実現に向けて、人を中心に考え、クオリティ・オブ・ライフを向上させる革新的なソリューションを提供していくとともに、事業活動に伴う環境、社会への負の影響が最小限となるよう努力します。

地球に	 環境価値ソリューション 気候変動の緩和と適応やサーキュラーエコノミーの実現など世界的な地球環境目標達成に貢献する製品・サービスを提供
社会に	 安心・安全・防災ソリューション 災害、事故などのさまざまなリスクから生命と暮らしを守る製品・サービスを提供
人に	 少子高齢化・健康志向ソリューション あらゆる年齢の人々の健康的で快適な生活を支える製品・サービスを提供

CSRの基本方針

CSRの基本方針を下記の通り定めています。

基本的には長期方針としていますが、中期タームで具体的列挙課題等の見直しを行っています。

CSRの基本方針

1. 基本姿勢：事業と社会の持続可能な発展

環境・社会・ガバナンスなど企業の社会的責任に関わる重要課題（マテリアリティ）に、高い感度を持ち適確かつ積極的・能動的に取り組み、「未来の社会を支える会社」として事業と社会の持続可能な発展を目指す。

2. 事業を通じ社会に貢献

環境、安心・安全・防災、健康など、社会が解決を必要とする問題を能動的に把握し、事業を通じた持続可能な解決策を提供する。

3. 多様なリスクに適確に対応

企業倫理・コンプライアンス、環境負荷、品質保証、労働安全など事業活動に関わる多様なリスクを適確に管理し、リスク発現時にも強靱な回復力を発揮する。

4. 社会と対話し継続改善

積極的に社会と対話し、これらの認識と実践を継続改善していく。同時に「サステナビリティ先進企業」との社会的認知をグローバルに獲得・維持することに寄与する。

行動規範

私たち、帝人グループおよびその役員・社員は、すべてのステークホルダーのクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、良心に従って行動します。

行動規範

Together

私たちは、多様性をお互いに尊重し、知識と能力を結集して持続可能な価値を共創します。

人種、宗教、性、文化的背景などの多様性を受け容れ、お互いの人格、個性を尊重します。

異なる意見や視点を歓迎し、誠実な対話を通じて、より良い結論を導きます。

社内外のパートナーシップを積極的に生かし、社会の持続的発展に貢献する製品・サービスを共に創りあげます。また、地域コミュニティとともに発展するため、よき企業市民として適切な社会貢献活動を行います。

Environment, Safety & Health

私たちは、事業活動にあたり、地球環境、安全、健康を最優先します。

研究開発、調達、生産、物流、販売、使用、リサイクル・廃棄にわたるすべての事業活動において、環境の保全および環境負荷の低減に努め、地球環境との共生を図ります。

すべての事業活動において人命を第一とします。安全な労働環境と心身の健康を確保し、顧客には安全で信頼に値する製品・サービスを提供します。

Integrity

私たちは、法令・規則を遵守し、人権および地域コミュニティを尊重して、誠実に行動します。

すべての事業活動およびサプライチェーンにおいて人権を尊重し、差別やハラスメント等を許容しません。また、説明責任を果たし、地域コミュニティから信頼される事業活動に努めます。

事業を行う国、地域、および多国間の法令・規則を遵守し、また国際的な規範を尊重します。

以下を遵守・尊重・保護します。

- 公正な取引
- 正確な記録作成・報告・保管
- 適時・適切・公平な情報開示
- 知的財産
- 個人情報・機密情報
- 内部通報
- 安全保障輸出管理

以下を許しません。

- カルテル等の反競争的取引
- 賄賂等の腐敗
- インサイダー取引・市場操作
- マネーロンダリング・テロリストへの利益供与
- 反社会的勢力との取引

Joy at Work

私たちは、皆が仕事に情熱を持つことができる、働きがいに満ちた明るい職場をつくりあげます。

お互いに役割と貢献を認め、信頼し助け合うことで、誰もが安心していきいきと働くことができる職場を築きます。

自ら高い目標を持って新たな可能性に果敢に挑戦し、共に働く仲間の成長を積極的にサポートすることで、チームの力を高めます。

私たちの目指す姿や仕事の意義を理解・共有し、仕事を通じて社会に貢献します。

INnovation

私たちは、たゆまぬ変革により、社会やお客様のニーズを先取りした革新的なソリューションの創出に挑戦し続けます。

感性を研ぎ澄まして、未来社会のニーズを先取りし、失敗を恐れず、革新的な製品・サービスの創造に挑戦し続けます。

多様な意見や視点の化学反応を活かし、よりよいアイデアや技術・手法を生み出します。また、既存概念や従来のやり方を打ち破り、自らを変革し続けます。

(2018年4月27日開催の帝人株式会社取締役会にて決議)

"行動規範" 私たちの実践ポイント

Together (PDF: 574KB) 

Environment, Safety & Health (PDF: 654KB) 

Integrity (PDF: 951KB) 

Joy at Work (PDF: 506KB) 

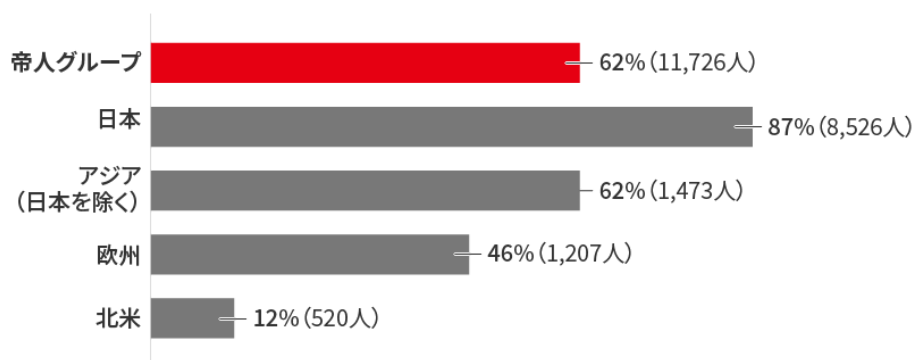
INnovation (PDF: 560KB) 

従業員意識調査アンケートの実施

「行動規範」を含む理念体系に照らして、従業員の認識と行動意識の実態を把握し、今後の浸透策を検討するため、アンケートを実施しています。2021年度は新たなシステムを導入し、グループ役員、グループ会社が直接雇用する従業員を対象に15言語でアンケートを実施しました。対象者19,060名のうち、11,726名が回答し、回答率は62%でした。企業理念および行動規範の浸透に関する設問を5段階で評価した結果、高評価5、4の回答の割合（浸透度）はグループ全体で64%となりました。

今後、調査結果の分析を進め、社員が行動規範に沿った行動ができるよう施策を検討するとともに、アンケートで確認していきます。

2021年度従業員意識調査アンケート回答率



グローバル・コンパクトへの参加

帝人（株）は、取締役会の決議により、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト*」に2011年3月から参加しています。「国連グローバル・コンパクト」は、各企業が持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに自発的に参加するという取り組みです。参加を表明した企業は、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則を支持し、実践することが求められます。

帝人グループは、グローバル企業として質の高いCSR経営を実践するために、2011年度、「国連グローバル・コンパクト」の原則を踏まえて「企業行動規範」「企業行動基準」を見直し、事業活動において、人権尊重などの基本原則を実践する方針を明確にしました。さらに、社会環境の変化に応じて、「国連SDGs」や「国連グローバル・コンパクト」などへの対応を明確にするため、2018年6月に「企業行動規範」「企業行動基準」を改定し、新たな行動規範の中で「Integrity：私たちは、法令規則を遵守し、人権および地域コミュニティを尊重して、誠実に行動します」を定めました。また、2019年3月に帝人グループ人権方針を制定し、人権の尊重は企業として果たすべき重要な社会的責任であるとの認識のもと、事業活動の全において、あらゆる人権侵害に直接的に関与しないだけでなく、社外の関係者を通して間接的にも加担しないよう努めることを宣言しました。

* 国連グローバル・コンパクト：1999年1月、世界経済フォーラム（ダボス会議）の席上で、コフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱した企業の自主行動原則。

国連グローバル・コンパクトの10原則

人権

- 原則1 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである
- 原則2 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである

労働

- 原則3 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである
- 原則4 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである
- 原則5 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである
- 原則6 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである

環境

- 原則7 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである
- 原則8 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである
- 原則9 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである

腐敗防止

- 原則10 企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである



This is our **Communication on Progress** in implementing the Ten Principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

サステナビリティ

マネジメント体制と推進活動

帝人グループにとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤を確立してCSR活動を推進しています。

マネジメント体制

帝人グループは、事業と社会の持続的な発展を目指し、CSR活動の責任者としてCSR管掌を定め*、取締役会の指示・監督のもと、事業と一体化したCSR活動を推進しています。

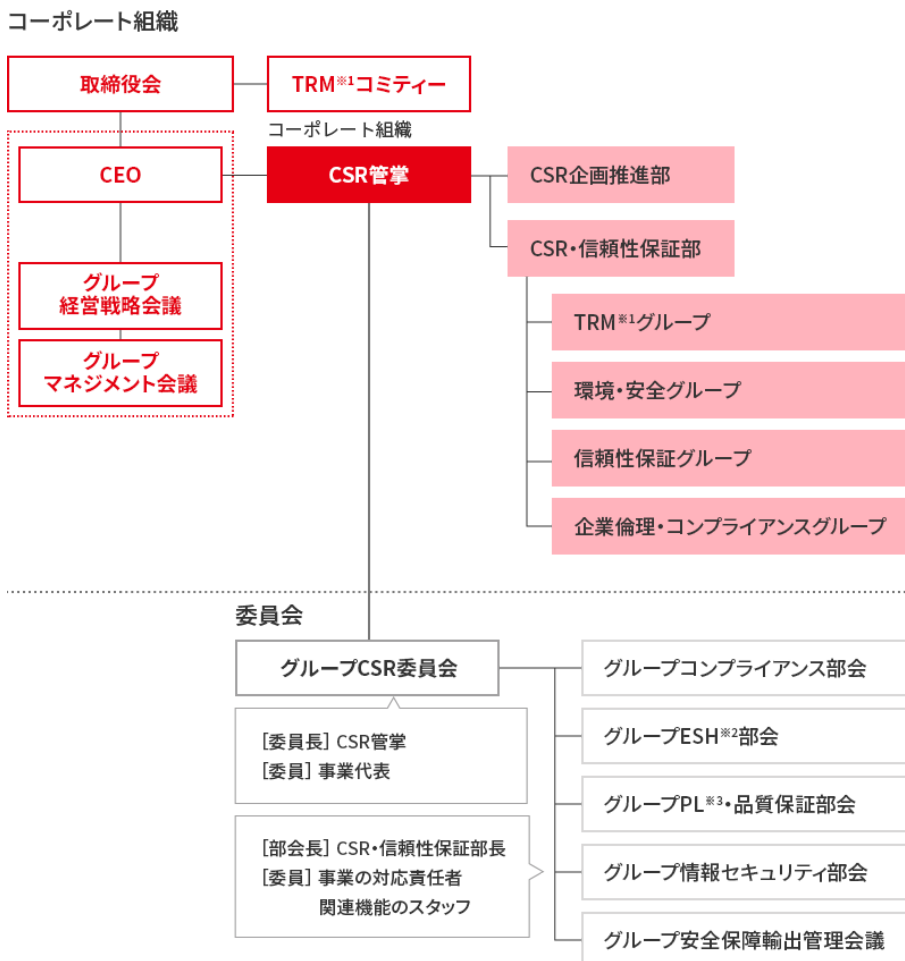
* ダイバーシティ&インクルージョンについては、人事・総務管掌が統括・推進

CSRに関する方針や計画および進捗は年2回グループCSR委員会で議論を行い、年1回CSR管掌によるレビューにより、各事業グループおよびグループ会社のCSR重要課題を確認しています。

これらの取り組みは、下記のように会議体で審議・報告され、取締役会の指示を受けています。

- 重要な業務運営リスクは、TRMコミティーで基本計画審議・進捗を報告し、TRMコミティーでの審議内容を取締役に報告（2回/年）
- 取締役会にてCSR管掌より機能執行報告（1回/年）

TRMコミティーでの審議内容については、グループCSR委員会で共有し、各事業・管掌系における活動および次年度の短期計画に反映させています。



※1 トータル・リスクマネジメント

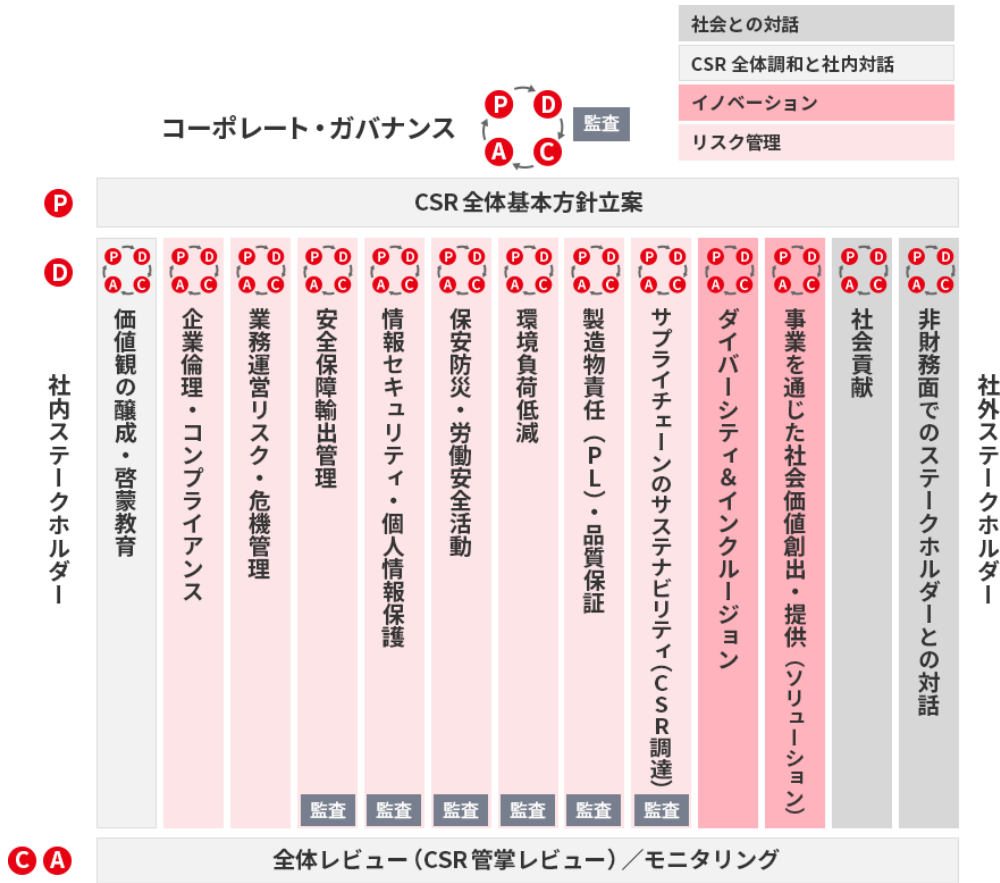
※2 Environment (環境保全)、Safety (安全・防災)、Health (健康)

※3 Product Liability (製造物責任)

推進活動

持続可能な社会の実現に向け、帝人グループにとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤を確立してCSR活動を推進しています。CSR活動をグループ全体で統合的、効率的に進めるため、CSR管掌の下、重要なCSR課題ごとに主管部署・担当組織を定め、中長期および単年度の計画（Plan）を立てることで、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルを回し、継続的な改善・向上を図っています。

CSR活動のPDCA



グループCSR委員会

帝人グループでは、年2回、CSR管掌を委員長とするグループCSR委員会を開催しています。

<議題>

- グループのCSR重要課題への対応状況、目標達成に向けた進捗の共有
- グループのCSR重要事項に関する課題抽出と対応策の提案
- TRMコミティー審議内容の共有と次年度計画の策定方針

2021年度は、外部有識者を招いて、サイバーセキュリティやイノベーション創出について情報共有を行うとともに、CO₂排出量削減に向けた事業推進体制、スコープ3削減目標への対応方針、複合災害に向けたサプライチェーンBCP/BCM、外為法関連法令改正などの重要課題の取り組みについて議論しました。

CSR管掌レビューの実施

帝人グループにおけるCSR活動について、年1回、CSR管掌によるレビューを実施し、各事業およびグループ会社のCSRの重要課題への対応状況とともに、重大な法令違反および事件・事故の有無を確認しています。

2021年度のCSR管掌レビューにおいて、法令違反および事件・事故に関するもので重大案件はありませんでした。

外部からの評価

SRIインデックスへの組み入れ状況（2022年8月現在）

帝人グループは、これまでのESGへの取り組みと、情報開示における透明性を評価され、代表的なSRI指標である下記のインデックスに継続して組み込まれています。

SRI（社会的責任投資）インデックスへの組み入れ

- 「Dow Jones Sustainability Indices」
- 「FTSE4Good Index Series」
- 「Ethibel Investment Register」



GPIFの5つのESG指数すべての構成銘柄に採用

- 「MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数」
- 「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」
- 「FTSE Blossom Japan Index」
- 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
- 「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



注 MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得

- MSCI ESG 「AAA」



ESGへの取り組みが優れている企業として、4つのプログラムに選定

- 「健康経営優良法人ホワイト500」
- なでしこ銘柄2022
- 「PRIDE指標2021」
- 「D&Iアワード」



サステナビリティ

マテリアリティとKPI

帝人グループの5つのマテリアリティと、重要指標および目標値を紹介します。

帝人グループのマテリアリティ

マテリアリティは、長期ビジョン「未来の社会を支える会社」を実現するために帝人グループが優先的に取り組む重要な社会課題です。「中期経営計画2020-2022」では、世界的な社会課題とSDGsが掲げるゴールを踏まえ、自社にとってのリスクと機会を整理し、2020年度以降の経営課題として取り組む5つのマテリアリティを特定しました。

マテリアリティとSDGs

マテリアリティ	主な取り組み	関連SDGs
気候変動の緩和と適応	環境価値ソリューション（軽量化等気候変動の緩和） 安心・安全・防災ソリューション（気候変動への適応）	 
	事業活動に伴う温室効果ガス排出削減	
サーキュラーエコノミーの実現	環境価値ソリューション（リサイクル等）	
	資源有効活用・廃棄物削減	
人と地域社会の安心・安全の確保	安心・安全・防災ソリューション	 
	環境汚染防止・化学物質管理	
人々の健康で快適な暮らしの実現	少子高齢化・健康志向ソリューション	
	従業員の健康・満足度向上	
持続可能な経営基盤の更なる強化	コーポレート・ガバナンス	
	企業倫理・コンプライアンス	
	ダイバーシティ&インクルージョン	
	情報セキュリティ・個人情報保護	 
	保安防災・労働安全活動	 
	健康経営	
	製造物責任(PL)・品質保証	
	サプライチェーンのサステナビリティ（CSR調達）	

マテリアリティの詳細情報はこちら

[気候変動の緩和と適応 >](#)

[サーキュラーエコノミーの実現 >](#)

[人と地域社会の安心・安全の確保 >](#)

[人々の健康で快適な暮らしの実現 >](#)

[持続可能な経営基盤のさらなる強化 >](#)

マテリアリティ特定プロセス

帝人グループは、社会課題を幅広く把握・整理し、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度の観点から重要課題の分析・抽出を行い、CSR管掌が外部有識者と対話した上、最終的には経営会議で帝人グループのマテリアリティを特定しています。

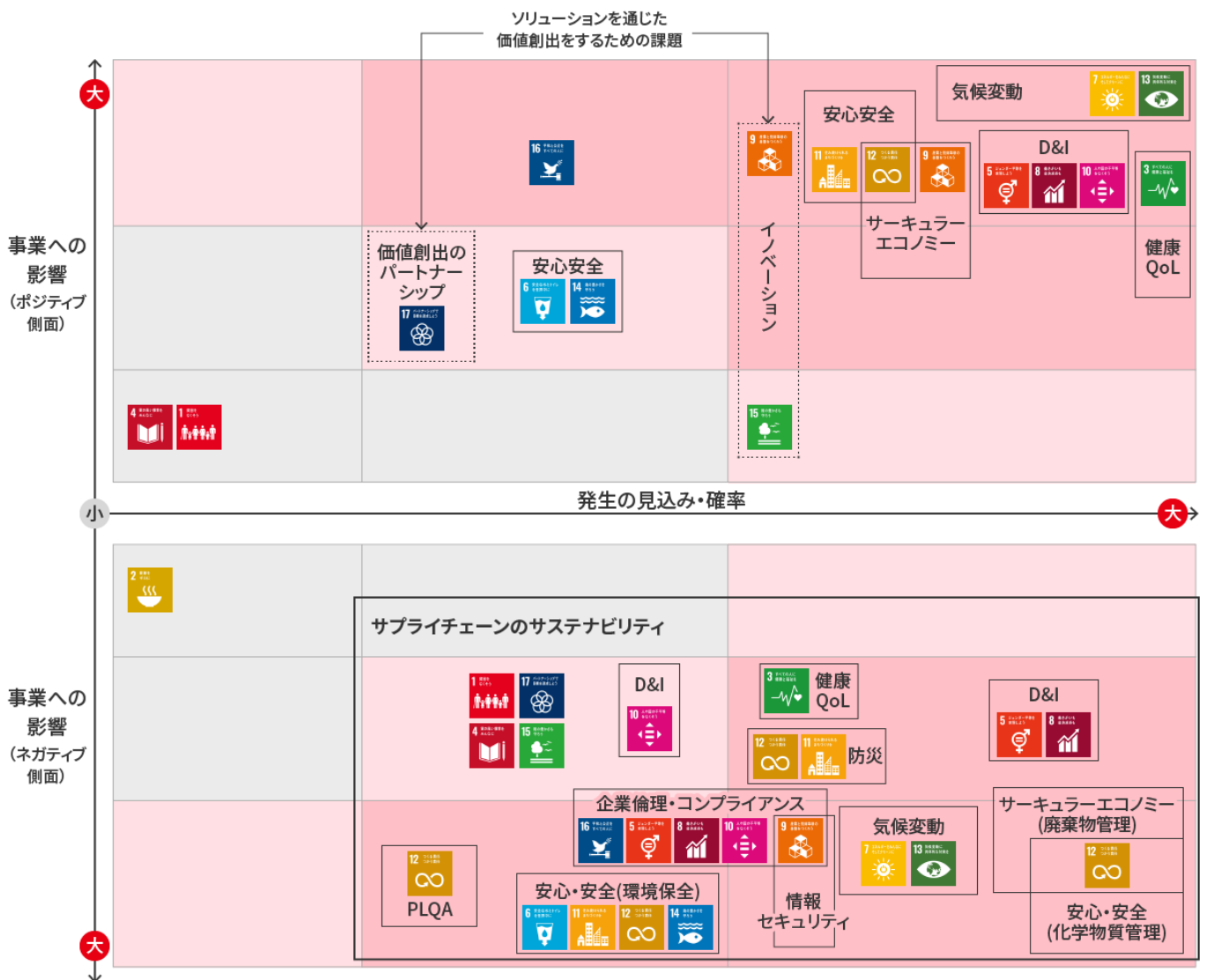


STEP1 課題把握・整理

SDGsを始めとする社会における課題のトレンドを広く把握、整理

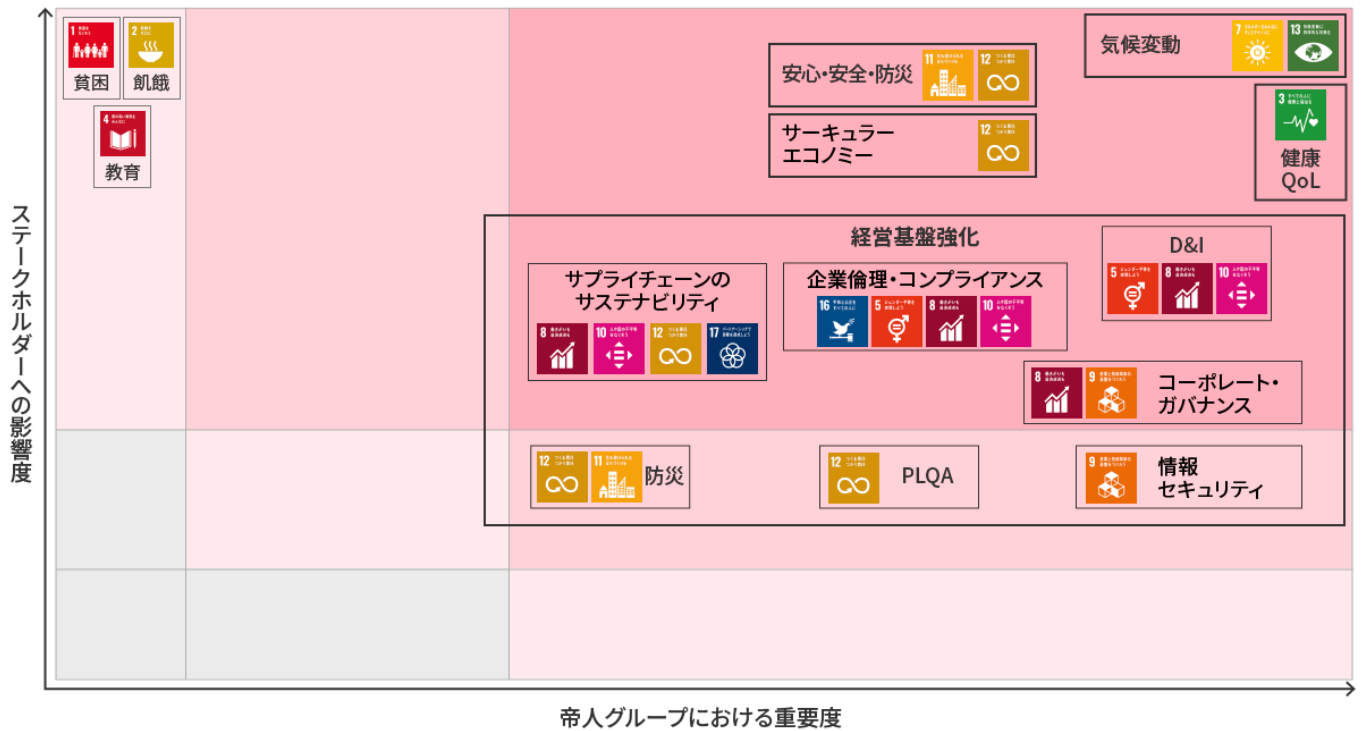
STEP2 重要度判定

事業への影響度（ポジティブ側面・ネガティブ側面の双方を考慮）と、発生の見込み・確率の両面から、帝人グループにおける重要度を判定。



STEP3 重要課題抽出

STEP2で分析した課題群から、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度が特に高い課題を重要課題として抽出。



STEP4 外部有識者とのダイアログ

帝人グループのマテリアリティの特定プロセスと抽出課題について、外部有識者と対話を実施。

実施内容

マテリアリティの特定プロセスと抽出課題についてのダイアログを2019年10月に実施し、外部有識者に幅広い見地からご意見をいただきました。

事業領域とソリューションの連動が企業価値を高める



富田 秀実氏
ロイドレジスタージャパン株式会社 取締役 事業開発部門長

SDGsを軸にマテリアリティを整理するにあたり、それぞれの事業活動の結果として3つのソリューションがあり、それがどう社会に貢献するのかを見せられると、ストーリー性が高まると考えます。また、ひとつの素材や事業を、複数のソリューションにオーバーラップさせることで、より広い範囲で企業価値を高めることができるのではないのでしょうか。SDGsに対応することでどんなビジネスチャンスが生まれるのか、社員一人ひとりが理解することも重要だと考えます。

次の100年に向けて、未来からのバックキャストが重要



渋澤 健氏
コモンズ投信株式会社 取締役会長

長期投資家の立場から見ると、企業がESGやSDGsに取り組む意味は、長期的・持続的な価値創造のためであるといえます。既存事業の積み重ねと未来に対するコミットメントからの逆算が重要です。「何をすべきか」だけでなく、「なぜそうするか」を考え、次の100年を描いた上でバックキャストも進めてほしいと思います。事業環境の変化を捉え、これまでの成功体験の外にどれだけセンサーを張れるかも今後ますます重要になるでしょう。
















気候変動に対する長期的な価値創造を期待



後藤 敏彦氏
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンボードメンバー
NPO法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事

TCFDへの支持表明は短期的視点でも評価できます。一方、ビジョンや戦略の策定においてはより長期の視点を持ち、創業150年後のありたい姿からバックキャストする形で2030年の目標を定めると良いでしょう。企業トップが方向性を示すことで、CO₂などを削減するためにどうすべきか、社員からもさまざまなアイデアが出ると思います。企業として生き残っていくためには、気候変動に対しても価値創造の観点から考え、取り組むことが重要です。

過去に開催した主なダイアログ

- 人権に関する外部有識者とのダイアログ（2020年度）（PDF：201KB） 
- 人権に関する外部有識者とのダイアログ（2019年度）（PDF：713KB） 
- コーポレート・ガバナンス対談（2018年度）（PDF：868KB） 
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進（2017年度）（PDF：776KB） 
- マテリアリティの取り組み（2016年度）（PDF：498KB） 
- CSR調達（2015年度）（PDF：561KB） 
- マテリアリティの特定（2014年度）（PDF：556KB） 
- 女性活躍のその先へ 真のダイバーシティとは（2013年度）（PDF：4.58MB） 
- 「アラミド繊維のグローバルリーダー」としての責任とは（2012年度）（PDF：12.17MB） 
- 災害時のCSRを考える（2011年度）（PDF：5.05MB） 
- 中国での環境取り組みはどうあるべきか（2010年度）（PDF：3.11MB） 
- よりよい在宅酸素療法をめざして（2009年度）（PDF：2.6MB） 
- 「エコサークル®」のさらなる拡大をめざして（2008年度）（PDF：3.15MB） 
- 環境配慮設計ガイドラインの運用（2007年度）（PDF：2.2MB） 
- 「エコサークル®」の推進（2006年度）（PDF：3.08MB） 

STEP5 マテリアリティの特定

経営会議において審議・確認し、「帝人グループのマテリアリティ」を特定。
2019年12月の経営会議において、現在の5つのマテリアリティを特定しました。

KPIと目標

帝人グループが設定したマテリアリティごとのKPIと目標は下表の通りです。

マテリアリティ凡例：

①気候変動の緩和と適応 ②サーキュラーエコノミーの実現 ③人と地域社会の安心・安全の確保 ④人々の健康で快適な暮らしの実現 ⑤持続可能な経営基盤のさらなる強化

マテリアリティ	KPI		目標	ご参考		
①②③④	「3つのソリューション」売上高比率		2030年度までに	全売上高の75%	2020年4月新設	
①	CO ₂ 削減貢献量*1		2030年度までに	「削減貢献>総排出」達成	2020年4月新設	
①	気候変動 (自社グループCO ₂ *2排出量)		2030年度	2018年度比 30%削減 (総量目標)	2021年7月改定	
			2050年度	実質ゼロ実現	2020年4月更新	
①	気候変動 (サプライチェーンCO ₂ 排出量*3)		2030年度	2018年度比 15%削減 (総量目標)	2021年7月新設	
②	水		2030年度	2018年度比 30%改善 (淡水取水量売上高原単位)	2020年4月新設	
③	有害物質		2030年度	2018年度比 20%改善 (有害化学物質排出量売上高原単位)	2020年4月更新	
②	資源循環		2030年度	2018年度比 10%改善 (埋立廃棄物量売上高原単位)	2020年6月更新	
⑤	ダイバーシティ&インクルージョン					
	役員*4 ダイバーシティ	女性役員数	2031年4月1日	10人以上	2020年4月更新	
		非日本人役員数	2031年4月1日	12人以上	2020年4月更新	
	女性活躍 重点目標*5	日本*6	管理職数	2031年4月1日	300人以上	2020年4月更新
		米国	上級管理職数*7	2031年4月	10人	2020年4月新設
		欧州	グローバルコア人材数*8	2031年4月1日	10人	2020年4月新設
		中国	上級管理職数*7	2031年4月1日	12人	2020年9月新設
		ASEAN	上級管理職数*7	2031年4月1日	8人以上	2020年9月新設

*1 当社製品使用によるサプライチェーン川下でのCO₂削減効果を算出したもの

*2 CO₂以外に、メタン、一酸化二窒素を含む

*3 スコープ3排出量のうち、カテゴリ1 (購入した製品・サービス) を対象。ただし、繊維・製品事業にて販売目的で購入した商品に関するカテゴリ1の排出量は除く

*4 取締役、監査役、グループ執行役員・理事

*5 地域別の課題に応じて設定

*6 国内グループ主要4社：帝人 (株)、帝人ファーマ (株)、帝人フロンティア (株)、インフォコム (株)

*7 グループ会社社長を含む上級管理職

*8 すでに相当数存在する管理職からグループ執行役員候補として選抜・認定された人材

サステナビリティ

ソリューションと価値創造

強みを活かした3つのソリューション提供により、新たな価値を創造し、社会に提供していきます。


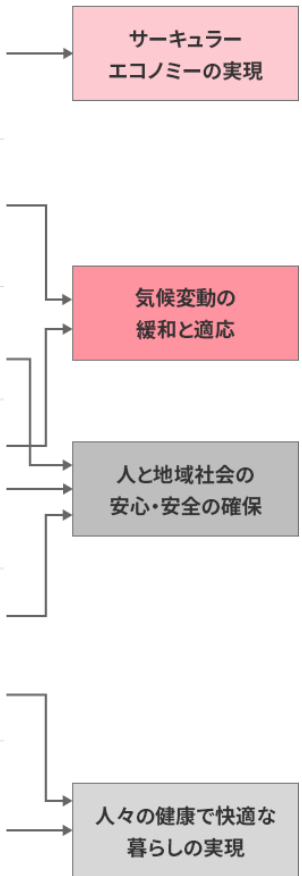


ソリューションと価値創造

帝人グループには「変革と挑戦」のDNAが受け継がれています。100年という歴史において、その時代時代の課題解決に挑み、数々のソリューションを提供してきた私たちの現在の目標は、持続可能な社会の実現に貢献すること。そのために、「環境価値ソリューション」「安心・安全・防災ソリューション」「少子高齢化・健康志向ソリューション」の3つのフィールドで、社会が必要とする新たな価値の創造に挑んでいきます。また、そのための土台となる経営基盤のさらなる強化と、リスクへの適確な対応にも一層注力していきます。

価値創造概念図



課題解決に貢献する提供価値

ソリューション	提供価値	製品・サービス例	
 環境価値 ソリューション	製品の長寿命化、3Rの促進で、サーキュラーエコノミーの構築に貢献 ■高耐久・高品質素材による製品の長寿命化、シェアリング (Reduce、Reuse) の促進 ■リサイクル技術の開発・提供を通じたパートナーシップによるバリューチェーン全体での資源循環性 (Recycle) の向上	●高性能タイヤ補強材 ●リサイクル素材	 サークュラー エコノミーの実現 気候変動の 緩和と適応 人と地域社会の 安心・安全の確保 人々の健康で快適な 暮らしの実現
	エネルギーの効率化・クリーン化で、気候変動の緩和に貢献 ■高機能素材・部材によるモビリティの軽量化・電動化 ■水素社会インフラに不可欠な製品による社会の脱炭素化	●軽量化素材・部材 ●バッテリーセパレータ ●水素パイプライン ●水素タンク	
	クリーン技術で、地球環境汚染の防止・浄化に貢献 ■ナノレベルの微細技術を活用したフィルタリングなどによる大気・水域への汚染物質、マイクロプラスチックなどの流出防止と浄化	●アスベスト代替素材 ●バグフィルター ●環境エンジニアリング	
 安心・安全・防災 ソリューション	高機能素材やIoTの活用で、安全性・強靭性を備えた社会の構築に貢献 ■高耐久素材とIoTの活用による自然災害被害の軽減・迅速な復旧 ■高耐熱・高耐久素材とIoT活用による火災、交通事故、犯罪などからの人体・生命の防護	●高機能繊維補強材料 ●雨水貯蔵ブロック ●安否確認サービス ●防護衣料 ●シートセンサーメンブレン	
	せいの力で、より快適な暮らしの実現に貢献 ■革新的な技術開発による「快適な衣類」「快適な住空間」「快適な移動」の具現化	●機能性インテリア製品 ●高付加価値衣料製品 ●カーシート地 ●電車シート ●自動車用吸音材	
 少子高齢化・ 健康志向 ソリューション	医療・健康サポートを通じて、人々の健康維持・健康寿命の延伸に貢献 ■画期的な医薬品・医療機器による治療水準向上と患者生活支援 ■ICT活用による医療従事者支援と地域連携支援 ■機能性食品や睡眠サポートによる健康水準向上	●医薬品 ●在宅医療機器 ●機能性食品 ●地域医療連携システム ●病院向けシステム	

「3つのソリューション」売上高

2030年度グループ目標

3つのソリューション全社売上高比率を75%以上

「3つのソリューション」売上高統計データ

